

ワーカーズ

http://www.workers-net.net/
mail workersnet@workers-net.net

毎月1日発行 1部150円 半年1000円(郵送)
郵便振替 00180-4-169433 (ワーカーズ社)

2018/11/1 588号



今号の内容

- ・外国人労働者の受け入れ拡大は何をもたらすか? ②③
- ・〈安倍憲法改定〉改憲の正面突破は許さない!—安倍政権の遺産づくり強政策を跳ね返そう!— ③⑤
- ・近年大活躍の櫻井よしこ氏の原点とは—「何があっても大丈夫」を読む ⑤⑦
- ・ころさない ころされない ころさせない ⑦⑩
- ・コラムの窓 ⑩
- ・エイジの沖繩通信・NO55 ⑪
- ・色鉛筆 ⑫

憲法改憲 辺野古新基地を強行しようとする安倍政権を退陣させましょう!

森友・加計問題は終わっていない! 安倍総理や昭恵夫人の関与は明らか!

10月24日に召集された臨時国会、森友学園、加計学園を巡る問題に対し、昨年の国会以来安倍総理はこの問題での自身の関与を否定し続けていますが、依然として説明は尽くされていません。

森友学園問題では、大阪府豊中市の国有地が、地下の廃棄物撤去費として約8億円値引きされ、森友学園に売却されました。今年3月に発覚した財務省による決裁文書の改ざんなどあれだけの不祥事があっても麻生太郎財務相は内閣改造後も留任しています。

安倍総理の友人である加計孝太郎氏が理事長を務める加計学園の獣医学部新設を巡る問題では、当時の首相秘書官が2015年4月に首相官邸内で、愛媛県や同学園の関係者と面会したことが県の内部文書で明らかになりました。また、同県作成の文書には15年2月25日、首相が加計氏と面会し、「新しい獣医学の考えはいいね」と

語ったと記されていました。

これに対し安倍総理は面会自体を否定し、加計氏も10月7日に2度目の記者会見を開き、学園の事務局長が「勇み足」で首相との面会を偽って県などに伝えた」と釈明しました。だが、会見で加計氏が愛媛県文書を「見ていない」と語りました。

片山さつき地方創生担当相の口利き疑惑をはじめ新聞僚らの資質を巡る問題が出てきています。

安倍総理は10月24日の所信表明演説で、来年10月からの消費税10%への引き上げを明言しました。低所得者に負担が重い消費税を増税するなどもつてのほかです。大企業への法人税の減税を止め、所得税の累進課税を強化し金持ちから税金を取るべきです。

安倍総理は改憲について、「(衆参の)憲法審査会で政党が具体的な改正案を示すことで、国民の理解を深める

努力を重ねる」と述べ憲法9条に自衛隊を明記しようとしています。まさに、戦争への道です。

こうした安倍政権に対し、9月30日に行われた沖繩知事選では、辺野古新基地建設反対の玉城デニーさんが勝利しました。また、10月21日に行われた那覇市長選でも、辺野古新基地建設反対の城間幹子さんが勝利しました。

これに対し防衛省は、10月17日辺野古埋め立て承認撤回の効力停止を行政不服審査法に基づき石井国土交通大臣に申し立てました。

しかし行政不服審査法は、国民の権利救済を目的としており国の

機関に「固有の資格」がある場合不服申し立てできません。今回のケースは、「固有の資格」があるのではないでしょうか。

10月9日の翁長前沖繩県知事の県民葬に出席した、菅官房長官の安倍総理の追悼の辞を代読し終わると会場から「嘘つき!」「帰れ!」「いつまで沖繩に基地負担を押しつけるんだ」「私たちの願いを聞いてください!」と怒声が響きました。当然です。安倍政権は、沖繩県民の声を聴き辺野古新基地建設を止めるべきです。

民衆の意見を聴かない安倍政権を、退陣に追い込みましょう。

(河野)



沖繩県知事に辺野古反対、翁長県政継承を訴えた玉城氏が—自公系に大差。

外国人労働者の受け入れ

拡大は何をもたらすか？

●はじめに

でしょうか？

安倍首相は10月24日、臨時国会の所信表明演説で「即戦力となる外国人材を受け入れる。入国管理法を改正し、就労を目的とした新しい在留資格を設ける。出入国管理庁を設置し、受け入れ企業の監督に万全を期す。社会の一員として、生活環境の確保に取り組み、日本人と同等の報酬を確保する。」と述べ「外国人労働者の受け入れ拡大」を表明しました。

●「働き方改革」の積み残し

実はこの「外国人労働者の拡大」は、当初「働き方改革基本法」に盛り込む予定でした。ところが折しもヨーロッパにおけるシリア難民問題が労働者相互の紛争にまで発展するのを見て、もともと外国人労働者受け入れに熱心だった財界が慎重論に転じたため、働き方改革に盛り込むのを見送った経緯があります。「働き方改革法案」の立案過程を振り返ってみましょう。その骨子は、①過労死・長時間労働をもたらず時間外労働を法的に規制する、②格差・貧困をもたらず非正規労働者の処遇を同一労働同一賃金で底上げする、③労働力人口の減少に対応し女性・高齢者・外国人の労働参加率向上を促す、というものでした。

●「骨太の方針」の問題点

今回の「骨太の方針」の端的な問題点は、大幅な外国人労働者の受け入れが事実上の「移民労働力」政策への転換の性格をもつにもかかわらず、「移民政策ではない」と否定しているため、移民労働者が必然的に伴う「家族」の問題に対して、「国」と

制」は抜け穴だらけで、運輸・建設労働者への適用が先延ばしになり、「脱労働時間制」や「裁量労働制の拡大」とセットとされるしまつでした。（裁量労働制は「厚労省のデータ捏造疑惑」

また、②「同一労働・同一賃金」についても、「基本賃金」の格差は手付かずで、派遣労働者の派遣元との格差について「労使協定」を結ばば容認される、抜け道だらけでした。

●「骨太の方針」の問題点

今回の「骨太の方針」の端的な問題点は、大幅な外国人労働者の受け入れが事実上の「移民労働力」政策への転換の性格をもつにもかかわらず、「移民政策ではない」と否定しているため、移民労働者が必然的に伴う「家族」の問題に対して、「国」と

骨太方針案骨子

- 2019年10月の消費税増税や20年の東京五輪・パラリンピック後に景気を失速させないよう財政出動の余地を確保
- 増税時の家計負担軽減に予算、税制両面で万全の策を講じる
- 基礎的財政収支の黒字化は従来目標から5年遅らせて25年度に
- 社会保障など歳出抑制の数値目標見送り。地方財政は18年度計画と同水準の一般財源総額を確保
- 19～21年度を経済財政の「基盤強化期間」と位置付ける
- 外国人の就労を拡大するため新たな在留資格を創設

これについて、外国人労働者支援団体関係者から、いくつか重要な指摘が上がっています。それは、①当面の労働力不足の対応にとどまり、包括的な中長期的視野での外国人労働者政策が提示されていない。②国内労働市場との軋轢を避けるための量的なコントロール手段（労働市場テスト）、「職

は？」Migrants Network 200号 2018・10より）

や諸現場では、困難を乗り越え奮闘する人々がいるのですから、こうした人々の切実な声を政策に反映させる方向で、政府の無責任を具体的に追及していくことが課題と考えます。

●「骨太の方針」の問題点

こうした「骨太の方針」に対して、「なし崩しの移民政策ではないか？」と追及するだけでは、今や決定的に不十分と思われず。資本主義社会は、一方では「国民経済」「国民国家」の枠組みを維持しようするため、資本は「国境」や「在留資格」の厳密な管理を要求しますが、他方では「資本」の海外への移転や「労働力」の海外からの移入なども要求するもので、必然的に両者は相矛盾することになります。

（松本誠也）

外国人労働者の受け入れ数

分野	期間	人数
介護	毎年	1万人程度
農業	2023年まで	最大10.3万人
建設	2025年まで	30万人以上
造船	2025年まで	2.1万人
宿泊	2030年まで	8.5万人

※政府試算

<安倍憲法改定>

◆改憲へのハードル
安倍首相にとつて、自民党総裁選での三選は、思惑どおりには終わらなかった。石破候補を完膚なきまでにたたきのめして対抗馬としての目を潰しておくこと、そのうえで「安倍一強体制」を継続したまま、政権運営でのフリーハンドを手

にしておきたい、という思惑は、あえなく潰えた。国会議員票では圧倒的な支持を集めたものの、党員票では想定以上の石破支持票が出たからだ。それは自民党国会議員と有権者の乖離を反映したものであり、安倍首相への不信任票ともいうべき意味合いも含むものだった。

得できない」が7〜8割もある。第二は、安倍政権の浮揚手段としてのアベノミクスの賞味期限の消失、つまりアベノミクスが成果を上げないばかりか、ポロが出始めていること。具体的には、物価上昇2%の実現と景気と賃金の好循環がいつになっても実現しないこと、銀行経営の悪化や年金資金の運用難などで異次元金融緩和の副作用が顕在化していること、それに、金融緩和からの出口戦略が見えないこと、要は先行



改憲の正面突破は許さない！ 安倍政権の遺産づくり強攻策を跳ね返そう！

自民党総裁選で安倍首相の三選が決まり、安倍政権最後の3年がスタートした。自民党総裁三選後の安倍政権のスタートにあたって、安倍首相は再度憲法改定への意欲を示した。が、三選後の安倍内閣の政権基盤も盤石だとは言いがたい。改憲への執着も、政権への求心力を維持するためのものだ、と見透かされた評価もある。

とはいえ、政権を握っているのは、あくまで安倍首相だ。その執着心からすれば、改憲に向けて正面突破の強攻策に打って出る可能性が無くなったわけではない。

最後には国民投票というハードルが待ち構えているとは言え、現時点から安倍改憲を阻止する闘いを広げていきたい。

き不安が解消できないことなど、だ。安倍首相が執着する憲法改定にしても、首相主導による憲法9条に自衛隊の保持を明記する「改憲」項目」の国会発議や、その先の国民投票での成算もはつきりしないままだ。例えば政権与党でもある公明党の態度だ。山口代表は、憲法改定は野党を巻き込んだ合意形成が必要だとして、与党が多数の議席で強行採決させるという手法を、これまでは一貫して拒んでいる。

次は、総裁三選後の地方選挙で与党系候補が相次いで敗れ、選挙の顔としての安倍首相への信任が揺らいでいることだ。

県那覇市長選で与党系候補が相

次いで敗北。また保守分裂選挙となった10月14日の沖縄県豊見城市と千葉県君津市の市長選挙でも、自民推薦候補や与党推薦候補が相次いで敗れている。10月28日に予定されている新潟市長選でこれまた与党候補が敗れることになれば、安倍政権の今後には暗雲が立ちこめることになる。

そんな安倍政権。政権支持率が底堅いといっても、支持率と不支持率が拮抗している現状に

変わりは無い。総裁三選後におこなわれた10月の内閣改造でも、支持率は上向かない。果たして莫大なエネルギーが必要な憲法改定に突っ走るだけの支持率を維持していけるかどうかは、まったく見通せないのが実情なのだ。

◆改憲への執着と布陣

それでも安倍首相、総裁三選後の党役員人事では改憲策動への地ならしともいえる布陣を整えた。

まず、衆院憲法審査会の与党筆頭幹事として新藤義孝氏を起用し

たこと、また自民党の憲法調査

协会会长に下村博文氏を起用したことだ。いずれも首相側近だ。これまで野党との協調で改憲へつなげようとしてきた中谷元氏や船田元氏を筆頭幹事や幹事から排除したことわけだ。それに、最終的に憲法審査会に自民党の改憲案提出を決定する総務会の会長として、これも首相側近の加藤勝信を起用し、さらに官邸と党の連絡役を担う総裁特別補佐として稲田朋美氏を起用している。

安倍首相は、安倍改憲への手駒として盟友や側近、いわゆる「お友達」を多用することで憲法改定への人的布陣を整えた。最後の任期での改憲に向けた安倍首相の執念を、党役員人事と

して反映させたわけだ。安倍首相は、10月24日から始まった臨時国会でも、憲法改定への意欲を明言している。ただし、「国民の皆様の理解を深める努力」（10月24日の所信表明演説）に言及したものの、臨時国会で改憲発議をす

現時点では国民世論も憲法改

定には慎重姿勢を見せている。9条改訂に絞れば、改訂賛成は少数派だ。改憲の国民投票で敗北すれば、内閣総辞職は必至、10年から20年ぐらいは憲法改定など、誰も言い出せなくな

ら始まった臨時国会でも、憲法改定への意欲を明言している。

安倍首相は、10月24日から始まった臨時国会でも、憲法改定への意欲を明言している。ただし、「国民の皆様の理解を深める努力」（10月24日の所信表明演説）に言及したものの、臨時国会で改憲発議をす

るとか、最短での来年参院選との国民投票の同日実施などを含み、改憲スケジュールへの言及はなかった。言葉だけみれば、慎重姿勢を振りまいているだけだった。

とはいえ、その慎重姿勢を真に受けてはならない。仮に来年の参院選で与党が3分の2の勢力を失えば、現在の与党だけでは改憲発議は出来なくなる。なので、確実に与党で3分の2を

る。私たちとしては、そんな最後の手段としての改憲国民投票以前に、安倍改憲に反対する世論を盛り上げ、安倍首相の改憲への野望を頓挫させる闘いを拡げ

ていきたい。（廣）

『何があっても大丈夫』を読む

近年大活躍の櫻井よしこ氏は、ことば皆様がご存じであろう。日本会議等の様々な集会で憲法改正の必要性を叫び続け、安倍総理の応援団・広告塔として講演

をしている。それだけではない。LGBTに「生産性がない」の差別発言で一躍時の人になる杉田水脈氏が次世代の党の落選候補で無聊を託っていた所をリクルートで拾い安倍総理に紹介し、自民党の衆議院候補者に仕立て直して当選させたのも、誰あろうこの櫻井よしこ氏なのである。

これら一連の余りにも激しい極右翼的政治活動については、かつて櫻井よしこ氏をリベラルな人だと認識していた人々は、当時と比較してその余りにも甚

だしいギャップや落差に呆然として思考停止に陥り、訳が分からずに当惑している人々が多いようだ。

周知のように櫻井氏はベトナムはハノイの野戦病院で出生し、その後日本に帰ってからは大分県中津市に一時住んだ後、母親の実家のある長岡市で中学校時代を過ごし慶応大学に入ったものの、ハワイ州立大学に留学した。そして同大学歴史学部を卒業後は「クリスチャン・サイエンス」東京支局長となった。その後、1980年5月から1996年3月まで日本テレビ

『NNNきょうの出来事』のメインキャスターを務めたのである。

ここで余談をつけ加えれば、今は都知事の池田百合子氏も1979年から1985年まで日本テレビ『竹村健一の世相講談』のアシスタントキャスターを務めた。NHK『海外ウィ

クリー』の幸田シャミンや野中ともよ、テレビ朝『BIG NEWS SHOW いま世界は』の安藤優子より1年早いデビューで、元々フリーから出発した女性キャスターとしては草分け的存在だった。その後、1988年よりテレビ東京『ワールドビジネスサテライト』初代メインキャスターを務めた。そして1990年度の日本女性放送者懇談会賞を受賞する。つまり池田氏も櫻井氏も大抜擢されてテレビ業界

手にしている来年参院選までの国会発議と国民投票の実施という中央突破方式に舵を切り替える可能性もないわけではない。自民党総裁選後の状況を見れば、改憲など不可能だとのメディアの分析もある。しかし、そんな分析に頼るのも危険だ。一つの前例がある。小泉政権の郵政解散—郵政民営化だ。

◆“小泉劇場”の前例

安倍首相による憲法改定に向けた正面突破の可能性は、まだ消えたわけではない。それには前例もあるのだ。小泉元首相による郵政解散と郵政民営化だ。

小泉政権によるあの郵政民営化は、最終盤で自民党内からも大きな抵抗に遭い、実現が困難視されていた。それを打開したのが、いわゆる郵政解散、その後の刺客選挙、いわゆる“小泉劇場”だ。

2005年8月、衆院可決後の参院で郵政民営化法案が自民党議員約30人の造反もあって否決。9月の解散総選挙で自民党は480議席中296議席を獲得。公明党31議席と合わせ327議席、衆院の3分の2以上の議席を獲得し、衆院で再可決可能な議席を獲得することで

郵政民営化法案を成立させた政治劇だ。

その“小泉劇場”、参院での否決後の衆院解散と衆院での再可決は、国家の意思決定としては筋違いだと批判された。ところが、解散—総選挙で自民党が圧勝した結果、一旦は造反した自民党議員の多数も賛成に回り、郵政民営化は承認されたのだ。これが現実政治の力学であり、ダイナミクスというものだった。

この時の安倍晋三は、前年まで小泉政権で幹事長職を務めた後で就任していた自民党幹事長代理だった。郵政選挙後には官房長官にも就任した。その安倍首相、“小泉劇場”の一部始終を目の当たりにしていたはずだ。時と場合によれば、首相による中央突破の威力は絶大なものだったの感慨を持ったとしても、不思議ではない。

安倍首相による改憲策動は、今は追い風を受けている状況にはない。が、首相のトップダウンによる中央突破方式での改憲攻勢で、それが実現してしまうこともないとはいえないのだ。

◆攻防戦は始まっている

安倍首相による改憲策動は、今は追い風を受けている状況にはない。が、首相のトップダウンによる中央突破方式での改憲攻勢で、それが実現してしまうこともないとはいえないのだ。たとえ消費税引き上げの延期表明での「新しい判断」や、憲法で規定された臨時国会の開

来年は天皇の代替わりも予定されている。来年の参院選と改憲を問う国民投票が同時実施されれば、来年5月1日の天皇の代替わり行事が進む時期と改憲の是非を問う論戦が繰り広げられる時期とが重なる。安倍首相としては、改憲を巡っていくら天皇と緊張状態にあるとは言え、有権者の反撥も買うかもしれない参院選と国民投票の同日実施にこだわるのだろうか。

あるいは、任期3年での改憲の実現をめざすとしても、来々年夏の参院選で与党系候補で3分の2議席を獲得する必要はある。が、その公算があるわけでもない。しかも参院選後の2年間、安倍首相の任期の末期でもある。改憲という大仕事を政権末期で実現するエネルギーが残っているのか、という政権への懐疑心も拡がっている。

とはいえ、安倍首相は、法律や公約を破ることになんかの呵責も感じない。政治的な逆境を自身を持つ権力でひっくり返すという、政治的な胆力には自信を持っているとでも考えているのだろうか。侮ることは出来ない。

たとえば消費税引き上げの延期表明での「新しい判断」や、憲法で規定された臨時国会の開

述が真実であると認めたものではなく、彼女が「真実と信じたことに相当の理由がある」というものであった。安部氏の弁護士団は櫻井氏の取材方法は捏造に近いと主張し、櫻井氏は口でこそ反論したものの、判断は受け入れたのである。

この直前から本名(櫻井良子・直木注)ではなく「櫻井よしこ」のペンネームを使用するようになった。つまり薬害エイズ裁判ではそれまで社会から激しく糾弾されていた安部氏が結局無罪判決を受けたことに対応して、櫻井氏は自らの言動を改めたのである。

そして2008年9月20日、エイズ裁判の弁護士だった弘中惇一郎・武藤春光編著の『安部英医師「薬害エイズ」事件の真実—誤った責任追及の構図』(現代人文社)が出版された。こうして櫻井氏を先頭とする「エイズ事件報道は嘘だらけだった」ことが明らかになってしまった。こうした事実、櫻井氏には実に冷酷かつ打撃だったのである。薬害エイズ裁判の判決と名誉毀損の裁判の事実によって櫻井氏は、第26回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した『エイズ犯罪・血友病患者の悲

最高裁の判決は、櫻井氏の記



櫻井よしこ『何があっても大丈夫』

に参入したのである。この3年後、櫻井氏も1993年度の日本女性放送者懇談会賞を受賞し、1995年に薬害エイズ事件を論じた『エイズ犯罪血友病患者の悲劇』(新潮社)で第26回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した。こうした経緯の中で薬害エイズ事件を追及された安部英氏が櫻井氏から逃げる無様な映像はテレビで度々大報道された。

この時、真実を追求するジャーナリストと逃げ回る事件の中心人物との対比が、恰も「正義」を追求の櫻井氏と「悪の権化」の安部氏との図式ではつきりと明確に視聴者には印象づけられたのである。

薬害エイズ事件は裁判となった。この裁判の経緯については『安部先生、患者の命を蔑ろに

劇』（中央公論社1994年）

という実質的なデビュー作であり、代表作でもある作品を絶版に、1998年出版の中公文庫も絶版にした。この文庫本の解説は、今でもジャーナリストとして優れた活動している広河隆一氏が担当している。その解説で彼は櫻井氏の取材の仕方や日本テレビでのキャスターの仕事ぶりを絶賛している。彼も又彼女の本質を捉え切れず、騙されてしまった人々の一人である。現在、古書価格は両著ともアマゾンではたったの1円だ。

勿論、その後現在までの出版社も本書を「復刊」や「復刻」していない。櫻井氏は『エイズ犯罪・血友病患者の悲劇』がまるで存在しなかったように自著では全く触れなくなり、注意深く隠蔽している。何故か。そこに書かれた多くが間違っていたからだ。櫻井氏がこの本を絶版にしたことで一切は終わり、櫻井氏の弁明など全く必要ないのである。

この本について今でも確認出来るアマゾン読者評の一部を紹介して置く。「真犯人は厚生省の役人だったわけだが、一人の医師を血祭りに上げることが厚生省への批判を避けることができたのは厚生省の役人にとつ

てこの上ない好事であった。櫻井は前代未聞の役人の犯罪隠しに荷担したわけである。姑息にも本書を自ら絶版にし、人々の記憶から消し去ろうとしたこの似非ジャーナリストは、今では嫌韓、嫌中の旗振り役である。

「www」とある。この評は、彼女のこれらの行動を客観的に的確に評したものと見えるであろう。又このことは櫻井氏等のマスコミによるセンセーショナルなエイズ報道を鵜呑みにして、帝

京大学副学長・安部英医師等を犯罪者に仕立てた上で、厚生大臣として患者たちに勝手に「謝罪」しエイズ問題の「解決」の道を開いたのは自分だと、事あるごとに自慢話を繰り返す菅直人氏は、今でもこの「エイズ事件の真実」は知らないままのよう

だ。櫻井氏批判に集中するため、この薬害エイズ裁判の判決には深入りしないが、薬害が科学的に解明されてそれを証明する論文が書かれていない内は、最低限の治療さえしていれば医師の責任は問われないと事実上断言した「基本的視点」と安部医師に求められる注意義務は「通常の血友病専門医の注意能力」との結論が導き出されたもので、

井氏が大分前から全国で約7万9千の神社を統括する宗教法人・神社本庁と一緒に改憲や歴史修正主義的活動に取り組んできた事は周知の事実である。まさに何かある。そして2015年2月4日、櫻井氏は『日本人に生まれて良かった』という無残な単行本を出版し、その恥多き人生を総決算する。人は頂点に立ったと思う時、墮落が始まる。まさにこれまでの願望が現実となった白日夢ではないか。今からでも決して遅くない。自分が何故ダイクサイドへ落ちてしまったのかを、真剣に反省すべきではないだろうか。

さらに2016年1月からは、全国の神社の境内で行われた憲法改正実現のための「1000万人」署名運動がある。これは神社本庁が改憲団体「美しい日本の憲法をつくる国民の会」の運動の一環として行ったものだが、同団体は神社本庁も参加する日本会議の団体であり、櫻井氏がその共同代表を勤めている事もこれまた公然たる事実である。

したがって人は櫻井氏の神社界（神社本庁）と一体化した言論活動と神社の土地を借りて巨

私としてはまったく容認出来ない。この他にも患者に不利で安部氏に有利に働く視点が目立っている。

さてやっと『何があっても大丈夫』（新潮文庫）を取り上げることが出来る。この本の親本は2005年2月に出版された。内容は2001年に母と二人でベトナムを訪ねた時、ポツリポツリと父のことを語り始めた母の話を書き留めるつもりで書き始めた本である、と櫻井氏は説明して

本書によれば父・清は、現在の横浜中華街で生まれた。祖父の信吉は腕の良い洋服の仕立職人で祖母のトキは働き者だった。その為、成功して何人もの職人を使っていたという。しかし大正12（1923）年の関東大震災で焼け出され、その後神戸に移っていったのであった。この典型的な三把刀職人の祖父は、当然のことながら華僑であろう。

更に本書では余り知られていない櫻井氏の家庭状況が詳しく書かれ、父母と兄等、父の愛人と父の前妻の子で櫻井氏の姉に当たる人たちとの思い出が綴られている。ここから分かるように、彼女は台湾人の華僑で品行

大な建物を建てたことは、何か深い関係があるのではないかと考えざるを得ない。当然である。だからこそ櫻井氏は自分が神社の境内に住んでいる事実を隠すのである。2016年5月2日のリテラでは、「改憲派のリーダー・櫻井よしこは『言論人の仮面をかぶった嘘つき』だ！憲法学者・小林節が対談を捏造されたと告発」したとの記事を掲載している（<https://littera.com/2016/05/post-2206.html>）。読者には必読の記事である。

不方正であった父の後妻の子

だったのである。日頃母から父は素晴らしい人だとの説明と現実の父との間にあるギャップにより、青春時代の兄は大きく動揺しグレかき立ち直るのに大変な時間がかかったのだが、櫻井氏はそれを知った時の本心は隠したままである。一部の読者はそこに彼女の強さを見ているが本当は違

た。そもそも何故、何があっても大丈夫との精神で自己を切開けないのか。父を母を紹介したの台湾でサロンを経営していた松尾夫人であった。母は今言う美容師であった。母は松尾夫人に気に入られその息子との結婚を囑望されたのだが、母は断った。それでも一切拘りなしに変わりなく優しく母に接した松尾夫人であったのである。

これらを読めば櫻井氏の父が華僑で台湾人だとの疑念がわくが、彼女は何故かはっきりと父の国籍は特定しない書き方をその後も続けてゆく。この点に読者は櫻井氏の深いコンプレックスを読み取ることが出来る。しかし自分の出自に何の恥じることもないというのだろうか。人は親を選べない。まさに生きて

いる限り、何があっても大丈夫の後も続けてゆく。この点に読者は櫻井氏の深いコンプレックスを読み取ることが出来る。しかし自分の出自に何の恥じることもないというのだろうか。人は親を選べない。まさに生きて

いる限り、何があっても大丈夫の後も続けてゆく。この点に読者は櫻井氏の深いコンプレックスを読み取ることが出来る。しかし自分の出自に何の恥じることもないというのだろうか。人は親を選べない。まさに生きて

なのである。

私が思うに、櫻井氏はこのコンプレックスから逃れるために知れず一人倍の努力をしていたに違いない。そしてその結果が英語へののめり込みであり、ハワイへの留学であろう。だからこそ、日本人以上の日本人になるうとの必死の努力があったと私は考える。

そしてこの必死の努力が先の名誉毀損裁判の過程で否定され、櫻井氏は深く深く傷ついたことだろう。母と二人で台湾旅行をしたのも、『何があっても大丈夫』を書いたのもその深い鬱屈を癒すための行動であったに違いない。彼女は本当に癒されたかったのである。

勿論、次のステップを目指すためである。しかし次のステップがダイクサイドへの転落となった。その努力の方向が生長の家や統一協会を背景とする日本会議への参加になったしまったのは、櫻井氏にとっては極めて自然な流れであったのだろう。櫻井氏は現実の日本人の姿から学ぶことなく、理念としての日本人像に迫ったのだが、それまで日本史・日本文化の研鑽に決定的に欠けていた。日本文化論が書けない櫻井氏は既成の右

果たしている。美人で、経歴が良くて、表現力もあるから、一般国民はコロッと行ってしまう。このままでは安倍政権や櫻井さんの嘘に騙されて、国民が判断を誤りかねない状況です」「私の経験から言うと、櫻井さんは覚悟したように嘘を発信する人です」

私も小林教授の意見に賛成だ。だが櫻井氏は変節したのでなく、ただ原点に戻っただけである。この一事を知ることこそ、櫻井氏の現在の言動を認識する核心である。（直木）

「なにが、なにが、なにが」

このところ、この国の敗戦の日には南京を訪問しています。その目的は、「神戸・南京をむすぶ会」の一員として中国の戦跡、皇軍による虐殺の地をめぐる、いわゆるダイクツーリズムです。日程は8月13〜20日、南京には毎年8月15日の追悼集会前後に訪れ、16日に湖南省へと移動しました。最終日の20日、調査から上海を経由して関空に戻ってきました。そういうえば、13日の中国人国時に10指の指紋を取られてしまいました。

そうしないと、上海・浦東空港から引返さなければならなかったのですが、昨年は必要なかったのに何と何と悔しい思いをしたものです。社会が進歩すれば国境の壁は低くなるはずなのに、21世紀は退行の時代なのかもしれません。国境なんて、軽やかに飛び超えられる日がいずれ訪れるでしょう。

（折口晴夫）

翼思想を受け売りする他、道はなかった。無知は如何ともしがたいものである。

政治に関心がある日本人なら、国家神道は神道一般とは違うことを知っている。だが浅薄な櫻井氏は国家神道の負の側面に無自覚である。青春期に日本を離れ日本歴史の研鑽の機会を怠ってきた深刻な付けが、その時の彼女に国家神道の本質を見誤らせたのだ。

それが『武士道のころ』を推薦する行動や神社本庁等への急速な接近として現れた。その根拠となる事実がある。その証拠に、2013年12月20日に出版された『迷わない。』（文春新書）では「私は神社のすぐ脇に住んでいます」（同200頁）とある。これを読んだ人は櫻井氏が神社の近くに住んでいると読み取る。勿論、これ以外の読み取りは出来ない。しかしこの表現が現実の意味する誰もが驚愕の事実とは、東京都港区の一等地にある素盞鳴尊を祀る有名な神社、赤坂氷川神社の境内に住んでいることなのである。確かに神社のすぐ脇に住んでいる事に間違いはない。一私人が宗教法人である神社の境内に自宅を建てているなどと一体誰が想像できるだろうか。実に想

1. 南京

13日、関空から上海へ、上海から南京へは高速道路で向かいました。この経路は日本軍が侵攻した経路に近いものです。1937年12月1日、「中支那方面群ハ海軍ト共同シテ敵国首都南京ヲ攻撃スベシ」という大陸令（大本営陸軍部が発する天皇の命令）が発せられ、12月13日の南京占領へと至ります。5月13日、NNNDキュメントで放映された「南京事件ii」は12月16・17日の魚雷營（海軍倉庫）での捕虜虐殺等を検証しています。さらに、「自衛発砲説」のあやまりも明らかにしています。解説には次のように書かれています。

「かつて日本が行った日中戦争や太平洋戦争。残された兵士のインタビューや一次資料を分析、さらに再現CGで知られる事なかつた戦場の全貌に迫る。政府の公式記録は、焼却されるなどして多くが失われた。消し去られた事実の重みの検証を試みるとともに現代に警鐘を鳴らす」

南京には多くの「遇難同胞記念碑」がありますが、これらは

何でも紹介

1984年8月15日に中曽根康弘首相の靖国参拝を契機として、翌85年に建立されている。南京利濟巷慰安所旧跡陳列館の施設も当初は荒れ果てていましたが、行くたびに整備されていきました。初めて目撃した戦場は、シヨックでした」(解説・205ページ)という経緯をし、翌1月5日に帰国しました。中央公論の特派員としてこの「戦場報告」を3月号に発表したのですが、直ちに発売禁止となった問題の書です。

8月15日の追悼集会前はこじんまりしたものでしたが、今年は国旗の掲揚まであり、大掛かりな催しとなっています。私たちは追悼集会に参加し、館長さんと懇談し、生存者の証言を聞き、そして館内を見学しています。

帰国後、石川達三「生きている兵隊」(中公新書)を読みました。第1回芥川賞を受けた石川氏は1937年12月25日、「小便可さい貨物に乗して上海から南京へゴト



1. 南京利濟巷慰安所旧跡陳列館

ゴトゆられて行きました。南京市民は難民区に隔離され、街中にはゴロゴロと死体が転がっていて、死の町という言葉がピッタリでした。初めて目撃した戦場は、シヨックでした」(解説・205ページ)という経緯をし、翌1月5日に帰国しました。中央公論の特派員としてこの「戦場報告」を3月号に発表したのですが、直ちに発売禁止となった問題の書です。

陸軍を激怒させ、「聖戦に従う軍を故意に誹謗したもの」「反軍的内容をもった時局がら不穏当な作品」(同207ページ)として内務省から発禁の通告を受けた理由は、生身の人間として戦場に投げ込まれた兵士の内面を戦闘を経てどのように変

わっていったかを克明に書き込んでいたからです。例えば、医師であったものが命を奪うことに無自覚になっていくさまを次のように書いています。「彼は兵の悪いところばかりに興味をもちすぐに自堕落さを真似てゆき、まるで真面目な学生が不良青年になって行く過程を自ら楽しむように、俺は姑娘(クニーヤ)漁りもできるぞ、支那兵の死体をわざと踏んで通ることも出来るぞ、街の家に火をつけることも出来るぞと誇っているような風であった」(150ページ)

『死んだ女房の形見だよ』(93〜94ページ)その意味するところは、言うまでもなく女性を強姦して殺し、金品を奪ってきたということですが、最も、中央公論に掲載された時はこのあたりは伏字となっていたものです。石川氏は新聞紙法違反で起訴されましたが、公判で次のように述べたというのですから、凄いです。「国民は出征兵士を神様の様に思い、我が軍が占領した土地にはたちまちにして楽土が建設され、支那民衆もこれに協力しているが如く考えているが、戦争とは左様な長閑なものではなく、戦争というものの真実を国民に知らせることが、真に国民をして非常時を認識せしめ、この時局に対して断固たる態度を採らしむる為には必要だと信じられておりました。殊に南京陥落の際には提灯行列をやりお祭り騒ぎをしていたので、憤慨に堪えませんでした」(解説・207〜208ページ)

8月16日、南京から湖南省への移動は高速鉄道で、武漢を経て岳陽東駅で下車。高速鉄道に乗ったのは初めてではありませんが、駅の大きさにはいつも圧倒されます。車中で高速鉄道を見たのですが、その総延長は25000km。9月23日にはそれが香港まで延長され、「一国二制度」がいよいよ危うくなるのではという危惧が、香港では広がっているようです。それにしても広大な中国での移動、日本とはその規模が違いますね。私のような旅行者の大変さと、生活者の大変さは質が違いますが、狭い日本そんなに急いでどうするのかと、壮大な無駄と環境破壊に終わるだろうリアン新幹線建設を聞きたいですね。

16日は洞庭湖・岳陽楼を見学し、廠審惨案遇難同胞祈念館を訪れたのは翌17日。湖南省の水郷地帯の3面を水に囲まれた廠審で1943年5月9日〜11日の3日間に3万人余の国民党軍兵士と難民が虐殺されました。ジャーナリストのたどころあきはる氏が「週刊



2. 侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館

に乗ったのは初めてではありませんが、駅の大きさにはいつも圧倒されます。車中で高速鉄道を見たのですが、その総延長は25000km。9月23日にはそれが香港まで延長され、「一国二制度」がいよいよ危うくなるのではという危惧が、香港では広がっているようです。それにしても広大な中国での移動、日本とはその規模が違いますね。私のような旅行者の大変さと、生活者の大変さは質が違いますが、狭い日本そんなに急いでどうするのかと、壮大な無駄と環境破壊に終わるだろうリアン新幹線建設を聞きたいですね。

16日は洞庭湖・岳陽楼を見学し、廠審惨案遇難同胞祈念館を訪れたのは翌17日。湖南省の水郷地帯の3面を水に囲まれた廠審で1943年5月9日〜11日の3日間に3万人余の国民党軍兵士と難民が虐殺されました。ジャーナリストのたどころあきはる氏が「週刊

めた雨はどんどん強くなり、傘を持たなかった私はすっかり濡れてしまいました。強い雨を避けずにはたさずむことが何故か心地よいものでした。

館長さんの車の先導で広い道に出る途中、有名な生存者任徳保さん(91歳)に出会い、少し話を聞きました。ガイドの戴国さんの通訳では何しに来たかといった内容でしたが、後日、本日は「日本人め!」といったもつときつい発言だったことを知りました。

これはチョットした「事件」のように感じたのですが、皇軍による虐殺を生き延びた方がこんな風に普通に生活をしているのは考えてみれば当然なのではないでしょうか。それをもう終わったこととして忘れ、あるいはなかったことにすることの危うさを感じます。それなのに、南西諸島の軍事基地化や南シナ海での対潜水艦訓練を行うなど、中国挑発を繰り返すこの国は何なんでしょう。

3. 常德

17日夕、バスで高速道路を移動して常德に到着。翌18日、常德弁護士会の計らいで細菌戦



3. 廠審惨案遇難同胞祈念碑

「結婚式に出席した父は感



4. 高峰弁護士

「1996年、日本の弁護士会からの調査申し入れがあった。当時の記録は不十分だったが、7334人が亡くなっている。被害はもっと大きい。受害者協会は民間団体で頑張っている。誰も同じ人間なの

染して死亡。体に黒い斑点ができたが病名分からず、まさかペストとは思わなかったが、酒席に同席した人が先に亡くなり、政府の告知でペストと知る。1996年に日本の調査団がやってきて、報道され、初めて常德で細菌戦が行われたことを知った。土屋(公献)、野瀬弁護士には感謝している」

湖精鋼(原告・農業)さん「1942年秋、数日で行かれたが、それがどのように行われたのかはあまり知られていません。例えばペスト菌ですが、暗室に「石油缶と同じ大きさの缶が並べられていて、その缶の中に穀つきの小麦を入れ、さらに籠に入れた黒いネズミを入れました。ネズミはノミのえさ」で、ネズミが死ぬと生きたネズミと取り替える。少年隊の一員として細菌の大量生産や生体解剖に関与した篠塚良雄氏は、731部隊に資料を持っているはず、公開を求める裁判をしている。昨年、私は入国を拒否された。安倍の態度を示すもの。この件も提訴している」

731部隊による細菌戦は否定しがたい事実となっていますが、それがどのように行われたのかはあまり知られていません。二次訴訟」を提訴。2002年8月27日、東京地裁が原告団側の請求を棄却。03年5月20日、東京高裁で細菌戦裁判控訴審第1回。05年7月19日、東京高裁が原告団側の控訴を棄却。07年5月9日、最高裁判所が原告団側の上告棄却・上告不受理決定。

ついでに、「731部隊・細菌戦資料センター」資料からの引用をもちおきます。

東京地方裁判所(民事18部岩田好二裁判長)は、2002年8月27日、731部隊細菌戦国家賠償請求訴訟(原告・中国人被害者180名)において、731部隊等の旧帝国陸軍防疫給水部が、生物兵器に関する開発のための研究及び同兵器の製造を行い、中国各地で細菌兵器の実戦使用(細菌戦)を実行し

「待機児童2万人下回った」というが保育労働者が犠牲を払っている

自治体が認可した保育施設には入れない「待機児童」「残業や持ち帰り」（68%）、今年4月時点で「職員1人が受け持つ子どもの数や業務の量」（65%）も目立ったという。（7/2 朝日新聞）まさに今保育現場で起こっている問題点がうきばりにさらされている。まず賃金は全産業平均より約10万円も低い。そして親の長時間労働によって子どもの保育時間は長くなり、それ達によって保育労働者は遅番早番の超過勤務が増え、勤務時間は7万1300人もいるのだから喜んでる場合ではない。認可施設でも認可外施設でもそこで働く保育労働者が犠牲を払っていることを知ってほしい。

子どもに数に国の配置基準が定められていて、例えば0歳児クラスなら子ども3人、1〜2歳児は6人だが、実際は多くの自治体がこれを上回る保育士を置いてきた。ところが、保育園が増えて必要人員の確保が困難になると基準を上回る保育士を置く自治体に対し基準並みに下げ、1人でも多くの子どもを預かるように指導している。ハイハイから歩行する時期の1歳児を保育士1人で6人というのは四六時中目が離せなく気が抜けない。年々増加するアレルギー児への対応や保護者への対応など様々な仕事がある。子どもが好きだから保育士になったはずなのに現実は時間に追われて、精神的にも肉体的にも限界を感じて辞めていってしまう若者が多い。調査を行った名城大学の箕輪明子准教授が「賃金の上乘せだけでは、当面の人が確保できてもつぎつぎに辞めていく。十分な人数配置による残業削減や休暇が取れる環境が必要だ」と指摘している。まったくその通りだ。

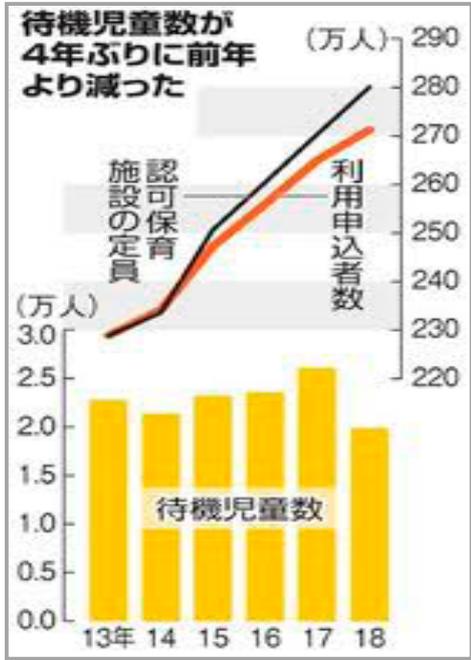
また、首都圏、近畿圏、政令都市などの都市部の待機児童を解消する為に政府は保育の規制緩和を行い、認可保育園が自治体だけではなく株式会社やNPO法人なども設置できるようにしてしまっただけでなく、保育士の量を重んじる政策でその為に「保育の質」の低下が起きている。

その実態が9月13日の東京新聞に記載されていた。『四十代の保育士女性性は、昨年2月人材派遣会社の子会社が約1ヶ月後にオープンする首都圏の認可保育所で働き始め、不安に襲われた。保育室におもちゃはなく、年間行事の計画もない。園庭がないのに、散歩に行く時に子どもを乗せるカート置き場や、プールあそびをするスペースも考えられていなかった。雇われた保育士は半数が新人や経験1、2年の若手。女性は子育てと両立するためパート勤務を希望した「人が足りない」と頼まれ、東京新聞）国から補助金をもらってずさんな運営を行っている認可外施設ではこれからも事故が起こるかもしれない。事故を起こしてしまっただけ保育士が心配になる。このように日々保育労働者は悪戦苦闘している。今年2月、あるユーザーがTwitterで千葉県の松戸市が市内で働く保育士に、勤務施設からの給与とは別に月額5〜7万円を支給する「松戸手当」を紹介した。すると評判になり2万人以上が拡散し「松戸市に引越したい」「他の自治体も見習ってほしい」「税金の払いがいがある」と評価する声が相次いだという。松戸市の保育課は「東京都に隣接しているため、給与の高い都内に保育士が流失するので対策が必要だった」と言い、保育士は徐々に増加しているという。保育士不足で定員を減らしたり、そもそも開園できなかったりする施設もあるほどだ。深刻化する保育士不足を解決しなければ安倍政権が掲げる『20年度末までに待機児童ゼロ』は、また目標倒れに終わるだろう。

昨年11月から今年2月、愛知県内の認可保育園などで働く保育士らの1万646人を対象に調べたところ、労働条件の改善点について賃金（82%、

（美）

色鉛筆



利用申込者数

認可保育施設の定員

待機児童数